

2023 年度事業活動計画

長期化したコロナ禍を経て、遺贈寄付を取り囲む環境にも変化があった。終活活動が活発となり、関連する書籍が多く販売されると共に、終活関連業者も多く台頭している。遺贈寄付についても認知が高まり、富裕層からの注目があることにより関連金融機関の関心も高く、また仲介事業を行うところもでてきている。このような環境変化の中で、中間支援団体としての当協会のあるべき姿、役割を問い直し、2023 年度は以下の様な方針で、日本社会での遺贈寄付の推進を図っていく。

全国レガシーギフト協会の特徴の再認識：他の団体と以下のポイントでの差別化を図った活動を行っていく

- 中立公正な組織であり、遺贈寄付を受けることを目的とはしない
- 遺贈寄付推進のために、遺贈寄付の情報発信を網羅的に行い、仕組みを提供し、遺贈寄付を取り巻く社会環境の整備を推進していく
- 団体の遺贈寄付担当者同士のコミュニティを形成していく(交流、相互研鑽の場の創出)

協会では次のステークホルダーを主要ターゲットと位置付け、優先的に活動を実施していく

- 加盟団体、レガシーパートナー：寄付者と対峙している組織であり、彼らを通じての遺贈寄付の推進活動が必要となる
- 遺贈寄付仲介組織周辺事業者(金融機関、終活事業者等)
- メディア
- 省庁：内閣府、法務省、消費者庁 等

2023 年度は以下の活動を中心とし、遺贈寄付を取り囲む社会環境の整備に努める

1. 会員向け提供価値の再検討とその可視化と実施に務める
2. 遺贈寄付ストーリーの収集と発表を積極的に行っていく
3. 土業、メディア、遺贈寄付仲介組織とのリレーションシップの形成を行う
4. 遺贈寄付ウィークは、受遺団体と遺贈寄付仲介団体、メディアとの協働活動を中心とし、寄付者には彼らからのアピールという作りとする
5. 「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」の普及、援用の働きかけ

1. 会員向け提供価値の再検討とその可視化と実施に務める

活動の目標

- 会員向け提供価値のバージョンアップをはかり、その発信等を通じ、会員数の増加に結びつけていく。
- 社会環境に応じて、対面での懇親を深め、遺贈寄付を共に学び理解を深める機会を提供していく
- 遺贈寄付サロン、勉強会等、会員相互間の情報共有がはかられる場の創出を行う。
- 受遺団体窓口育成プログラムをリリースし、受遺団体母集団を増やす

生み出したい価値

- 受遺団体や窓口を担っている加盟団体の担当者が孤立せず、横の連携を深めることができる
- 会員団体の担当者同士の連携強化により、担当の力量アップに留まらず、広く社会の遺贈寄付の受け入れ能力が向上する

具体的な活動計画

- 対面での交流会、研修会を定期的に行う。その第一歩として、遺贈寄付サロンは、6 月に開催する第 18 回目から、対面を含むハイブリッド形式にて実施する。
- コミュニケーション・ツールで会員同士のネットワークの場を作る(検証過程を経て実施)

- ・ 会員団体の理事と当協会理事によるシンポジウム開催により遺贈寄付に取り組む意義を NPO 等に訴求する場を創出する。

2. 遺贈寄付ストーリーの収集と発表を積極的に行っていく

活動の目標

- ・ 遺贈寄付の啓発に有効と考える遺贈寄付ストーリーを広く収集し、一般の方がアクセス可能となるような情報発信を行う。
- ・ 訴求するに効果的なフック(テーマや分野, きっかけ等)を抽出し、フックを有効に活用した発信に努める

生み出したい価値

- ・ 遺贈寄付ストーリーの発信による遺贈寄付への関心者の増加を促進する

具体的な活動計画

- ・ これまで入手したストーリーの整理するとともに、フォーマットを作成し、継続的に収集・発信する仕組みを構築していく
- ・ 効果的なフックを抽出し、効果的な見せ方にて HP 及び遺贈寄付ライブ、メディア等にて発信
- ・ 地方メディアなどへの情報提供を積極的に行う

3. 土業、メディア、遺贈寄付仲介組織とのリレーションシップの形成を行う

活動の目標

- ・ 寄付者に近い土業、メディア、遺贈寄付仲介組織との関係性を構築し、遺贈寄付の理解を深めてもらい、遺贈寄付関連情報、ストーリー等の発信を能動的に実施してもらう

生み出したい価値

- ・ 遺贈寄付について触れる・関心をもつ・理解するチャネルが増え、より多くの方が遺贈寄付について考え、準備を始めてもらうきっかけとしてもらう。

具体的な活動計画

- ・ 未アプローチの出版社のリストアップし、アプローチを開始する
- ・ 対象となる一般ターゲットが接触するメディアでの情報発信が行われるよう、メディアに働き掛ける。(例:終活関係の雑誌の出版社、エンディングノートの発売元)
- ・ 相続、遺言、終活にかかわる専門資格発行元のリストアップと関係性の構築を行う(例:相続アドバイザー、終活ライフケアプランナー等)
- ・ 発信情報については、遺贈寄付ストレートな話としないよう、調整を行う(例:終活や相続の話題からのアプローチ)、
- ・ 定期的な研修会、セミナーを実施していく

4. 遺贈寄付ウィーク 2023 の開催

活動の目標

- ・ 寄付者とタッチポイントを持つメディア・土業・金融機関・終活関連事業者と受遺団体とを繋ぐことを目的として実施
- ・ 受遺団体が広報しやすいプラットフォームを用意し、一般の人(寄付者)には受遺団体等から広報してもらうこととする。

生み出したい価値

- ・ 遺贈寄付が進む社会環境の整備として、受遺団体等と寄付者のマッチング

- 遺贈寄付の認知拡大

具体的な活動計画

- 遺贈寄付ウィーク特設ページを活用して継続的な情報発信を行っていく
- イベントは、メディア、土業、金融機関、終活関連事業者といった、寄付者とタッチポイントを持つステークホルダー向けの内容とする。
- 拡散、活用してもらえるような、協賛団体からの「遺贈寄付のストーリー」集の作成と特設ページ上での紹介を行う。

5. 「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」の普及、援用の働きかけ

活動の目標

- 非営利団体が、遺贈寄付の倫理について理解し、倫理観高い活動を行えるよう、ガイドラインの普及と遵守、援用団体を増やしていく。

生み出したい価値

- 寄付者が安心してその財産を非営利団体に託せるような環境の整備を行う

具体的な活動計画

- 寄付の不当勧誘防止法に沿った内容でのガイドラインの改訂を行い、動画作成などにて情報発信を実施する
- 加盟団体については全団体でのガイドラインの援用と HP 上での可視化、レガシーパートナーは、既存のパートナーの 7-8 割の援用を目指す
- 米国 AFP (Association of Fundraising Professions) が提唱する Ethical Month である 10 月に、日本ファンドレイジング協会とともに、寄付の倫理についての情報発信を行う (例: 10 月の遺贈寄付ライブでのトピック)

